

Labo NEWS



Aichi Association of Medical Technologists Report

らぼニュース

CONTENTS

- 巻頭言 愛臨技総務部門の業務を紹介します…………… 1
- 中根清司先生を偲んで…………… 2
- 第20回愛知県医学検査学会の開催方法変更について…………… 3
- 地区だより(尾張北)…………… 4
- 西三河がんフォーラム、研究会… 5
- AiCCLS 愛知県臨床検査標準化協議会通信(第68回) …………… 6

2020年8月6日現在 正会員数 3,500名

愛臨技総務部門の業務を紹介します

総務部門担当副会長
夏目 久美子

去る令和2年6月14日に開催された定時総会および理事会において、令和2・3年度総務担当副会長を拝命いたしました、岡崎市民病院の夏目です。2年間よろしくお願い致します。

総務部門には庶務部と会計部があり、担当副会長、庶務部長、庶務担当理事2名、会計部長の5名で会務を行っています。公益社団法人としての運営基礎確立のための規程の整備、年1回の定時総会の開催と毎月1回の理事会の運営、各部門から出される文書の管理、事務所・事務備品・事務職員の管理、財政基盤の整備と適正な会計監査の実施、長期的な財務計画の立案を行って、愛知県や各種医療関連団体との連携をしながら活動している部門です。しかしながら、収支決算や法人登記に関してはかなり専門的な内容であり、公認会計士や司法書士のご指導を受けながら、業務を遂行しております。

令和2年度は、役員改選と法人登記が年度当初の一番大きな事業でしたが、既に役員改選は定時総会にて行われ、登記も無事完了して新体制が始まっています。事業目標としての事務職員の確保につきましては、7月から新しい職員を迎えることができています。今後は、愛臨技創立70周年記念誌の作成、事務所移転や会費の見直しに向け、他の部門と協力して事業を進めてまいります。

さて、総務部門は、他部門の事業が円滑に執行できるよう「愛臨技組織体制の継続にとって必要不可欠な業務のすべて」という非常に広範囲な業務を行っているわけですが、具体的には、①メールチェック・転送、②郵便物発送・分別、③文書発行・発送(講師依頼状・講師礼状・委嘱状・承諾書など)、④出納管理(現金出納・銀行での出入金)、⑤会計管理(システム入力)、⑥公印管理、⑦会員入退会管理(日臨技事務権限)、⑧理事会開催準備、⑨事務所備品管理、⑩事務所入退室管理、⑪その他、総務部門諸々の事務作業、などがあります。われわれ総務部門役員も職場業務がある身であり、事務作業の実働は愛臨技事務所の事務職員4名が毎日2名体制で対応しています。

昨年度末から現在まで、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、様々な行事が中止や延期となり、慣れないリモートで会議を行うようになってまいりました。今後は、with コロナ時代に合わせた技師会活動が展開できるよう、新たな取り組み方を検討していきます。

会員、賛助会員の皆様方の絶大なるご支援とご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。



中根清司先生を偲んで

中部大学生命健康科学部

松本 祐之

7月2日早朝に元愛臨技会長で元名古屋大学病院技師長の中根清司先生が逝去されました。

中根先生とは、私が昭和53年4月に名大病院に入職して以来の付き合いであり、中根先生には臨床検査技師として一から指導をしていただきました。日常業務はもとより実験の指導、特にコンティニアスフロー方式を用いた自動分析装置による測定系の組み方や、最適条件となるカム(サンプルと水の吸引比率)の選択など、事細かに教えていただきました。学会前にはスライドの作製の仕方から原稿の校正と、私の初めての中部学会での発表では、前日の夕食(ビールを飲みながら)の後に原稿の最終校正が終わり、発表準備をしたことを今でも鮮明に覚えています。

平成元年に中根先生から技師会理事として私の手伝いをしてくれないかと声をかけていただき、4月より愛臨技理事を務めることになりました。

中根先生は昭和59年度より愛臨技副会長を2年間務められ、昭和61年度から9年間会長を務められております。私も同じ職場であったこともあり、すぐそばでその活動を見ておりました。昭和62年と平成5年に2度中部学会の学会長を務められ、一番の大きな事業としては、愛臨技が昭和62年に愛知県知事から社団法人としての認可をいただけたことだと思います。

愛臨技の法人格取得の活動は、昭和56年の早田繁雄会長にさかのぼり、その後、昭和59年から舟橋冨次雄会長、昭和61年から中根会長と引き継がれ、6年間の歳月がかかっております。中根先生は、副会長時代より法人化取得のため愛知県との折衝を重ね、会長時代には森芳夫副会長、伊藤秀郎庶務部長とともに何十回と愛知県庁に足を運び、法人格取得がやっと叶ったと記憶しております。中根先生は、技師会活動以外にも日本臨床化学会での標準化活動や、生物試料分析科学会の立ち上げ、関西地区と中部地区の交流となった「臨床化学のつどい」の世話人など、多くの学術活動も行っておりました。私もその活動の一員として加えていただけたことが今日につながったものと大変感謝しております。その中でも「臨床化学のつどい」のための中京病院での勉強会(MSC会; Medical Science Circle)での旅行や、臨床化学会夏期セミナーなどは大変楽しい思い出として残っております。

中根先生は社団法人愛知県臨床衛生検査技師会の生みの親でもあり、私にとっては父親のような存在で温かくご指導いただけたことが、私の誇りであり、思い出です。

天国では、昔の臨床化学の仲間である影山信雄先生(中京病院技師長)、深津俊明先生(掖済会病院検査部長)、毛利秀彦さん・風岡健治さん(掖済会病院)たちと、楽しく臨床化学談義をしていることと思います。我々、愛臨技の仲間をいつまでも見守っててください。これまでのご厚誼に感謝いたしますとともにご冥福を心よりお祈り申し上げます。

合掌



愛臨技創立70周年記念 第20回愛知県医学検査学会の 開催方法変更について

この度の新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年7月5日開催予定であった第20回愛知県医学検査学会を、令和3年度へ開催を延期する案内をいたしました。現在の新型コロナウイルスの感染状況の収束が見通せないことから、開催方法を見直し、現地会場での開催は行わず、一部の企画を中止または縮小し、抄録集での誌上開催および Web での学会を下記要領にて今年度中に実施することといたしました。

国内においても多くの学会や研修会が延期もしくは中止となり、今後も従来の形式で開催することが不確実な状況のなか、最近では、種々の Web 会議システムが用いられ始め、その有用性も認識されつつあります。

この時節にあたり事態の収束を祈りながら待つより、今後定着するであろう Web 学会を、皆様とともに作り上げ、愛臨技としての第一歩としていきたいと思っております。

度重なる開催日程の変更で、会員の皆様にはご迷惑をおかけし誠に申し訳ありませんがご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

また、一般演題の発表者、および協賛いただきました企業様へは、詳細を別途ご案内させていただきます。

当院は2011年に名古屋市立西部医療センター城北病院を母体に、現在の場所へ病床数500床、33の診療科を持つ急性期総合病院として生まれかわりました。「地域がん診療連携拠点病院」「がんゲノム医療連携病院」「地域災害拠点病院」、WHO・ユニセフより「BFH(Baby-Friendly-Hospital)」の認定を受け、がん医療と小児・周産期医療を大きな柱とし、災害医療にも力を入れています。がん医療は陽子線治療センター・消化器腫瘍センター・内視鏡センター・呼吸器腫瘍センター・脳腫瘍センターなどを中心に多くの手術・化学療法・放射線治療(陽子線治療を含む)を行っており、2020年4月よりがんゲノム医療も開始されました。小児・周産期医療はハイリスク分娩や胎児・新生児の疾患に常時対応しています。ハイリスクを含む分娩は年間1,200件以上あり、新生児医療に特化したNICU・GCUが設置されています。また当院は災害医療に対応できるよう屋上にヘリポートをもち建物全体は免震構造を備えています。当中央検査科においても日本DMATや愛知DMATメンバーへ加わり、災害医療の体制を整えています。

当院は名古屋市の保健・医療・福祉の総合的エリア「クオリティライフ21城北」の中心的施設であり、同敷地内には全国に23ヶ所ある粒子線がん治療施設の一つである「名古屋市陽子線治療センター」、重症心身障害児者の地域生活拠点である「名古屋市重症心身障害児者施設ティンクル名古屋」、市民の健康づくりの場であり芝生公園やウォーキングコースがある「ウェルネスガーデン」があります。当院4階には患者さんの癒しの場として緑ゆたかな屋上庭園が設置され、すぐ隣には広大な志賀公園があり朝夕を問わず

散歩や運動している人達で賑わっています。職員の中には、健康づくりやストレス発散を目的に休憩時にウェルネスガーデンや志賀公園へ出かけウォーキングを楽しんでいる人もいます。

当中央検査科は22名の臨床検査技師が在籍しています。開院から9年が経ち各検査機器の更新や現状に適したシステムの見直しやチーム医療としてNSTやICTなどにも力を入れています。併せて検査技術や知識の向上を目指し超音波検査士や細胞検査士などといった様々な認定資格の取得に取り組んでいます。しかし、今年は新型コロナウイルスの影響で様々な活動自粛を強いられ資格試験も延期されており、臨床検査技師として今後チーム医療や市民・地域にどのように貢献していくか、今まで以上に深く思いを巡らせています。

新型コロナウイルスの猛威はまだまだ終わりが見えません。「気軽に当院へ」とは申し上げられない状況ですが機会がございましたら是非当院へも足をお運びください。



西部医療センター



名古屋市陽子線治療センター



名古屋市重症心身障害児者施設ティンクル名古屋



ウェルネスガーデン

令和2年度 第1回 西三河がんフォーラム

基礎教科：20点

日 時：令和2年10月7日(水) 18:30～19:30

場 所：安城更生病院 2階 講堂

テ ー マ：『エビデンスでは教えてくれない
CDK4/6阻害剤 PD 後のエリブリン
の使い方』

講 師：広島市立広島市民病院 乳腺外科
主任部長 兼 ブレストケアセンター長
大谷 彰一郎

司 会：安城更生病院 乳腺外科
乳腺外科代表部長 雨宮 剛

参加費：無料

内 容：当院は地域がん診療連携拠点病院として、がん治療の三大療法である手術療法、放射線治療、化学療法に力を入れています。

今回の西三河がんフォーラムは、乳癌薬物療法について広島市立広島市民病院の大谷彰一郎主任部長より講演させていただき、西三河地区のがん診療に従事する医療者と共に乳癌薬物療法について学びます。

ただし、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては急遽開催を変更する可能性があります。開催変更がある場合には、安城更生病院のホームページのお知らせにてご案内させていただきますので、お出かけ前にご確認ください。

【暫定処置開催】研究会 【微生物検査研究班】

専門教科：20点(レポート提出者に限る)

日 時：2020年10月3日(土)から10月16日(金)

募 集：2020年9月1日(火) 9:00開始

場 所：Web 配信

テ ー マ：ここまで分かった新型コロナウイルス
—感染拡大に備えて私たちが知っておくべきこと—

講 演 1：新型コロナウイルス検査の現状
—研究班班員施設の
アンケート結果分析—
名古屋掖済会病院 市川 佳保里

講 演 2：新型コロナウイルスの検査について
—今、知っておきたい
SARS-CoV-2検査の要点—
愛知医科大学病院 坂梨 大輔

講 演 3：新型コロナウイルス院内アウトブレイクから学ぶ
—院内発生からLAMP法導入までの道のり—
碧南市民病院 太田 晃成

講 演 4：新型コロナウイルス院内アウトブレイクから学ぶ
—PCRを活用したアウトブレイク対応—
名古屋第二赤十字病院 原 祐樹

司 会：小牧市民病院 西尾 美津留

内 容：新型コロナウイルスが首都圏を中心に再拡大の兆候を見せており、愛知県においても患者が急増しています。さらなる感染拡大に備えて私たち臨床検査技師が知っておくべき知識を共有します。

愛知県内における感染拡大を鑑みて、Web 配信にて実施します。詳細は微生物研究班の HP をご参照ください。

愛知県臨床検査標準化協議会 (Aichi Committee for Clinical Laboratory Standardization: AiCCLS) は、愛知県下の医療施設への臨床検査標準化の啓発活動を軸とした質の高い検査結果の共有維持を目的として、活動しています。

今回は、新しく発刊された刊行物、細胞診アトラス 呼吸器シリーズから(19)と(20)についてご紹介いたします。

これから細胞診を学ぶ若者から経験を積んだベテランまで幅広く活用できるように編集し、細胞画像を多数取り入れ、とても見やすくまとめられていますので、是非ご活用ください。

詳しい内容、購入方法については、愛知県臨床衛生検査技師会 HP の、臨床検査標準化情報をご覧ください。

(AiCCLS：愛知県臨床検査標準化協議会)

腺癌 (乳頭型腺癌)

患者年齢：70 歳代 性別：男性 検体種類：喀痰
臨床所見：胸部異常陰影

【判定】 陽性

【細胞所見】
炎症性背景に核小体の腫大や一部に核形不整を示す腫瘍細胞が重積性のある乳頭状集塊で出現している。集塊には核の配列不整がみられる。細胞質はレース状、一部に空胞変性や好中球の取り込み像がみられる。核は類円形で偏在傾向を示し、微細顆粒状に増量したクロマチンを有する。

【細胞診断のポイント】
立体的な乳頭状集塊が特徴的である。細胞質はライトグリーンに淡染し、泡沫状～レース状、ときに細胞質内粘液や大型不染空胞がみられる。クロマチンは微細顆粒状で増量し、大型明瞭な核小体を認めるものが多い。核は円形～類円形で偏在傾向を示す。

低分化な細胞像では、角化を伴わない扁平上皮癌との鑑別が難しい。腺癌は扁平上皮癌に比べて、集塊がより立体的で、細胞の配列が不規則で一方への流れは明らかではない。核形不整があっても、輪郭が滑らかでクロマチンが微細である。核小体は単個で核の中心に存在する傾向にあるが、扁平上皮癌では複数で辺縁に存在する傾向がある。治療薬選択の相違から両者の鑑別が求められるが、形態的に鑑別困難な場合には過度な診断は避け「非小細胞癌 NOS (NSCLC-NOS)」との報告にとどめ、無理に断定しない²⁾。

【定義・概念】
腺癌は腺上皮分化を示す悪性の上皮性腫瘍である。上皮内腺癌、微少浸潤性腺癌、浸潤性腺癌、特殊型腺癌に分けられる。乳頭型腺癌は浸潤性腺癌の亜型であり、腫瘍細胞が線維血管間質を取り巻くように、あるいは積み重なり、腫瘍腺管内に乳頭状に充満するように増殖する像が優位な腺癌である¹⁾。

AiCCLS 愛知県臨床検査標準化協議会
細胞診アトラス「呼吸器シリーズ」(19)

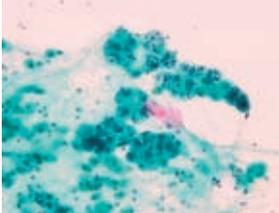


写真 1：Pap. 染色 ×40

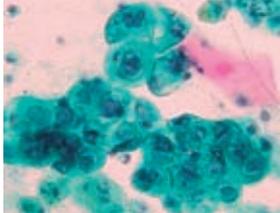


写真 2：Pap. 染色 ×100

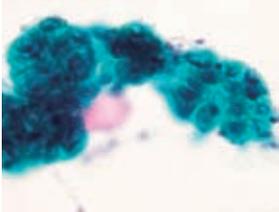


写真 3：Pap. 染色 ×100

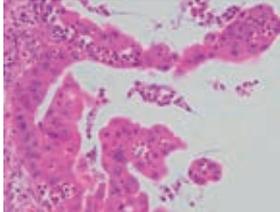


写真 4：HE 染色 ×40

Aichi Committee for Clinical Laboratory Standardization

腺癌 (浸潤性粘液性腺癌)

患者年齢：60 歳代 性別：女性 検体種類：気管支擦過
臨床所見：すりガラス陰影

【判定】 陽性

【細胞所見】
粘液物質を背景に細胞質内に粘液を有する腫瘍細胞が大型の平面的集塊で出現している。腫瘍細胞は高円柱状細胞が主体であり、クロマチンは微細顆粒状で軽度増量、核の切れ込みやしわを認める。

【細胞診断のポイント】
背景には粘液物質を認めることが多い。平面的なシート状あるいは柵状集塊、ときに乳頭状集塊で出現し、配列は規則的で極性がある。細胞質内に粘液を有する高円柱状の細胞で、核は類円形～楕円形、クロマチンは微細顆粒状で軽度増量、核形不整が認められる。細胞異型が比較的軽度な症例では、杯細胞の集塊ないしは過形成として過小評価されることがあるので、見落としには注意が必要である²⁾。

【定義・概念】
浸潤性粘液性腺癌は新たに導入された概念で、従来は粘液性細気管支肺腺癌に分類されていたものである。非粘液性細気管支肺腺癌と臨床像、画像所見、病理像、遺伝子学的背景が異なること、広範に検索を行えば浸潤成分が同定されることが多いことから、通常の腺癌とは別の浸潤性腺癌の特殊型に分類されることとなった。高円柱状で豊富な細胞質内粘液を有する気管支上皮の杯細胞に類似した腫瘍細胞から構成される腺癌である。癌遺伝子として代表的な KRAS 遺伝子変異を有する率が高いことが知られている。

免疫組織化学的染色では、通常の肺腺癌で陽性となる TTF-1 や napsinA は陰性で、胃や消化管腺癌で陽性となる HNF4α がびまん性に陽性となる。また CK7 陽性、通常の肺腺癌と異なり CK20 は局所的な陽性を含めると約 80%陽性となる¹⁾。

AiCCLS 愛知県臨床検査標準化協議会
細胞診アトラス「呼吸器シリーズ」(20)

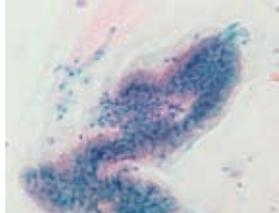


写真 1：Pap. 染色 ×40

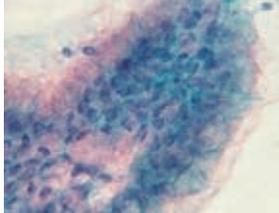


写真 2：Pap. 染色 ×100



写真 3：Pap. 染色 ×100

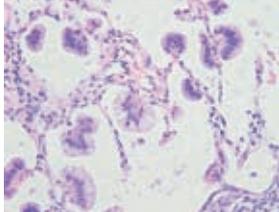


写真 4：HE 染色 ×40

Aichi Committee for Clinical Laboratory Standardization